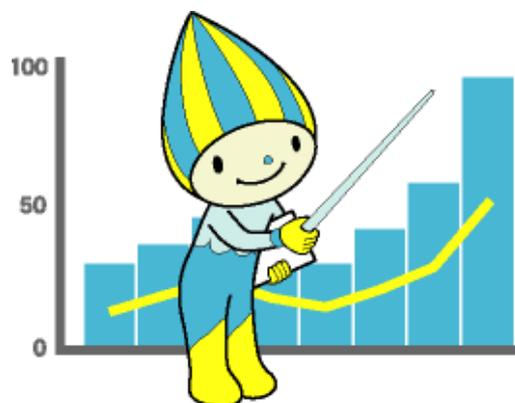


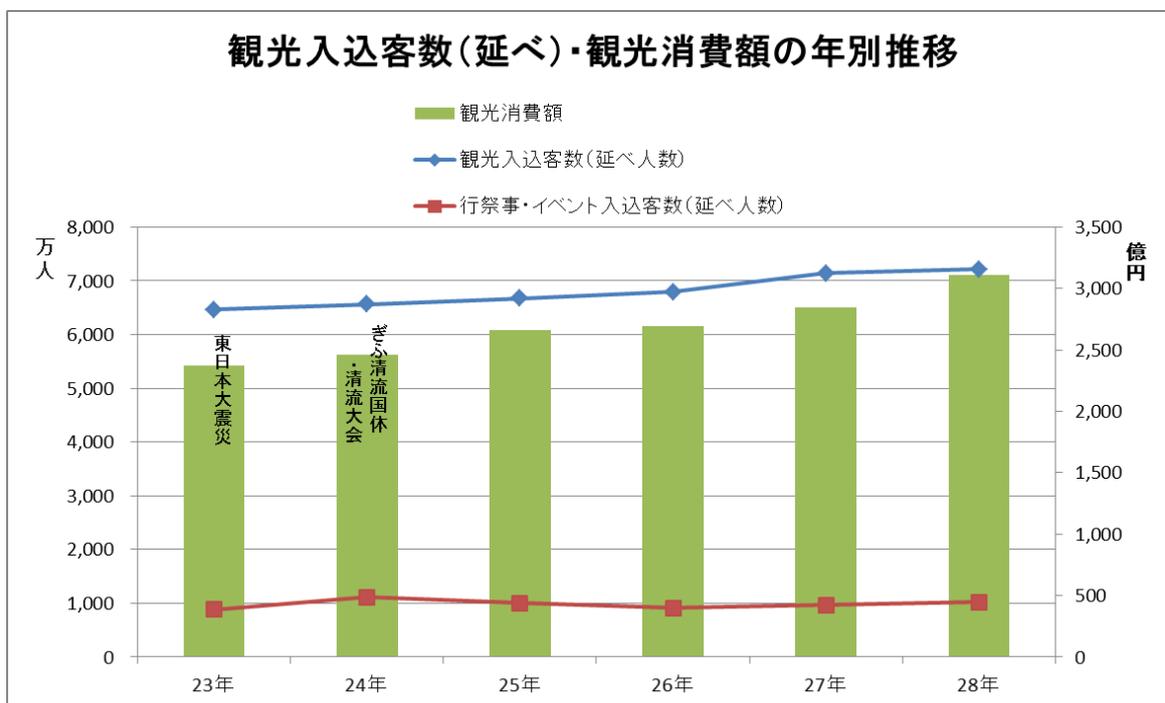
平成28年岐阜県観光入込客統計調査



平成29年9月

岐阜県観光国際局観光企画課

1 観光入込客数（延べ）・観光消費額



区 分		平成28年（対前年比）	参考：平成27年
観光入込客数（延べ人数）		7,212万2千人（+1.0%）	7,139万5千人
行祭事・イベント入込客数（延べ人数）		1,019万2千人（+5.4%）	967万3千人
観光消費額	全 体	3,113億80百万円（+9.5%）	2,843億74百万円
	日帰り客	1,681億80百万円（+36.9%）	1,228億16百万円
	宿泊客	1,432億円（△11.4%）	1,615億58百万円

※平成23年の調査より、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」を導入し、調査手法を変更している。
 ※千人未満を四捨五入しているため、対前年比に誤差が生じることや、内訳の計と合計が一致しないことがある。

- **観光入込客数（延べ人数）**は、7,212万2千人（対前年比+1.0%）、**行祭事・イベント入込客数（延べ人数）**は、1,019万2千人（対前年比+5.4%）と、いずれも前年に比べて増加している。
 ※なお、**観光入込客数（実人数）**も、4,696万2千人（対前年比+7.7%）と、前年に比べ増加している。（4項参照）
- **観光消費額**の総額は3,113億80百万円（対前年比+9.5%）で、うち日帰り客分は1,681億80百万円（対前年比+36.9%）、宿泊客分は1,432億円（対前年比△11.4%）であった。

○**主な傾向**は、以下のとおり。

- ・1年を通じて概ね天候に恵まれ、前年に引き続き旅行しやすい環境にあったと考えられ、全体として入込客数は増加している。
ただし、GWなど休日の日並びが前年より良くなかったこともあり、日帰り客数は伸びているが、宿泊客数は減少している。
- ・観光消費額は、一人当たりの平均消費額について、日帰り客分が大きく伸びた（3,292円→4,114円）反面、宿泊客分は減少している（25,688円→23,544円）。
宿泊客分の減少については、前年のふるさと旅行券利用の反動減を補うため割引価格で販売されたり、中国人団体観光客向けに宿泊単価を引き下げて提供された事案もあったということで、要因の一つと考えられる。
- ・外国人観光客（実人数）については、前年までの伸び率から落ち着きをみせているものの、堅調な伸びをみせている。

2 観光地点別の集客数（県内トップ10）

（単位：万人）

順位	観光地点名	入込客数	参考：27年	
			順位	入込客数
1	土岐プレミアム・アウトレット	733.5	1	735.8
2	河川環境楽園（アクア・トトぎふ含む）（各務原市）	503.2	2	505.2
3	高山市街地エリア	361.2	3	346.2
4	白川郷合掌造り集落（白川村）	187.3	5	161.2
5	千代保稲荷神社（海津市）	164.2	4	162.9
6	湯の華アイランド（可児市）	159.9	6	154.6
7	伊奈波神社（岐阜市）	149.7	8	149.7
8	千本松原・国営木曾三川公園（海津市）	145.0	7	153.4
9	世界イベント村ぎふ（岐阜メモリアルセンター）（岐阜市）	130.5	9	144.0
10	下呂温泉（旅館の宿泊利用及び日帰り利用）	119.5	10	113.1

○観光地点毎の入込客数は、1位から3位までの地点の順位に変動はなかった。

○平成27年3月の北陸新幹線延伸開業以来、前年に引き続き飛騨地域の主要観光地の入込客数が伸びており、特に、白川郷合掌造り集落は前年比16%増で順位を4位に上げている。暖冬の影響により冬期でも道路状況が良かったことや、北陸新幹線延伸開業をふまえ、金沢～白川郷間的高速バスが増便されたこと（平成28年4月）、そのほか、映画「君の名は。」（平成28年8月公開）のヒットにより、舞台のモデルとなった飛騨地域への注目度が高まったこと等が入込客の増加につながったと考えられる。

*参考：飛騨古川 古い町並み（飛騨市） 27.1万人（前年比13.5%増）

3 行祭事・イベント入込客数（県内トップ10）

（単位：万人）

順位	行祭事・イベント名	入込客数	参考：27年	
			順位	入込客数
1	長良川花火大会（岐阜市）	70.0	1	80.0
2	ぎふ信長まつり（岐阜市）	40.0	2	40.0
3	高山祭	31.7	10	23.9
4	郡上おどり	31.4	3	32.0
5	大垣まつり	31.0	4	27.0
6	元気ハツラツ市（大垣市）	30.5	5	26.0
7	道三まつり（岐阜市）	30.0	8	24.0
8	土岐美濃焼まつり	27.0	6	25.0
	各務原市桜まつり	27.0	13	20.0
10	刃物まつり（関市）	25.0	6	25.0

○行祭事・イベント毎の入込客数の県内トップは、昨年と同じ「長良川花火大会」（岐阜市）で70万人、2位が「ぎふ信長まつり」（岐阜市）で40万人、3位が「高山祭」（高山市）で32万人となった。

○天候によって入込が大きく変動するため、前年に比べ天候に恵まれた「高山祭」や「各務原市桜まつり」が大幅に入込客数を伸ばして上位にランクインした。

4 経済波及効果（試算）

平成28年の県内観光消費による経済波及効果（観光関連産業の経済波及効果）を試算したところ、生産誘発額は4,601億12百万円、就業誘発効果は、44,868人となった。

<参考> 旅行者分類別データ

県内観光客の動向をより詳細に分析するため、観光入込客数を実人数に換算し、旅行者分類別、県内圏域別の入込客数、外国人宿泊客数等を算出した。

※詳細は、別添「参考表」参照

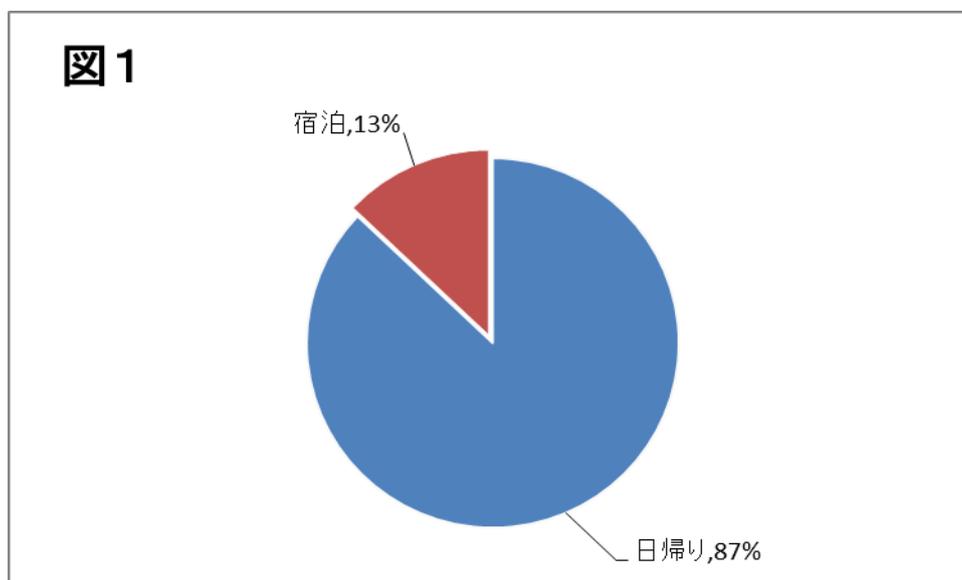
※千人未満を四捨五入しているため、対前年比に誤差が生じることや、内訳の計と合計が一致しないことがある。

(1) 日帰り・宿泊別観光入込客数

<観光入込客数（実人数）>

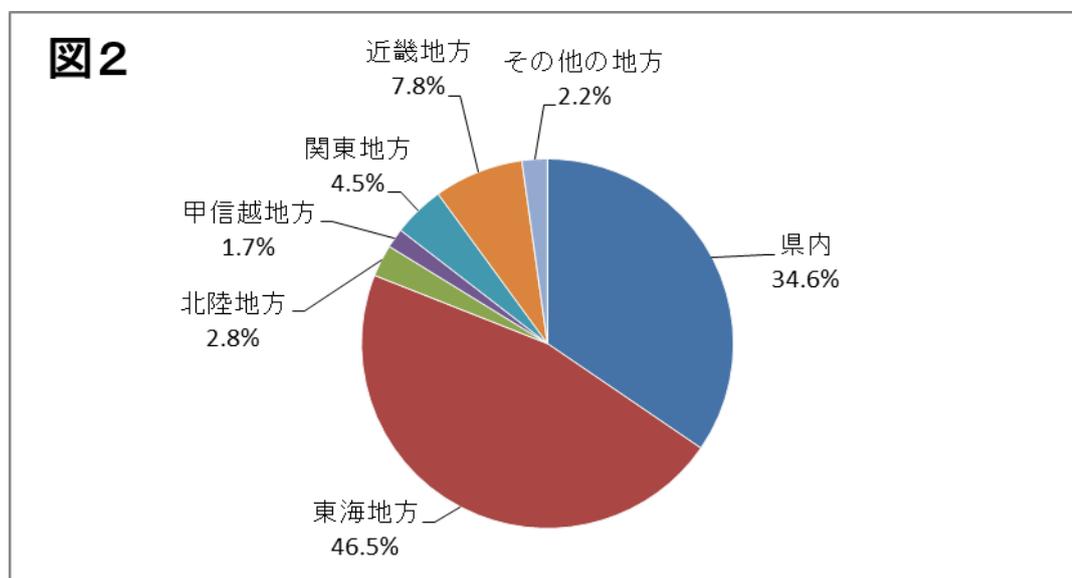
区 分	平成28年（対前年比）	参考：平成27年
全 体	4,696万2千人 (+7.7%)	4,360万1千人
日帰り客	4,088万0千人 (+9.6%)	3,731万1千人
宿 泊 客	608万2千人 (△3.3%)	628万9千人
【うち外国人】	【84万4千人 (+9.4%)】	【77万2千人】

※宿泊客の「うち外国人」については、観光庁の宿泊旅行統計調査における本県の外国人延べ宿泊者数をもとに算出している。（平成28年外国人延べ宿泊者数 101.3万人）



平成28年の観光入込客数（実人数）は4,696万2千人であったが、これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は4,088万人、宿泊客は608万2千人であり、依然として日帰り客が多い。（図1）

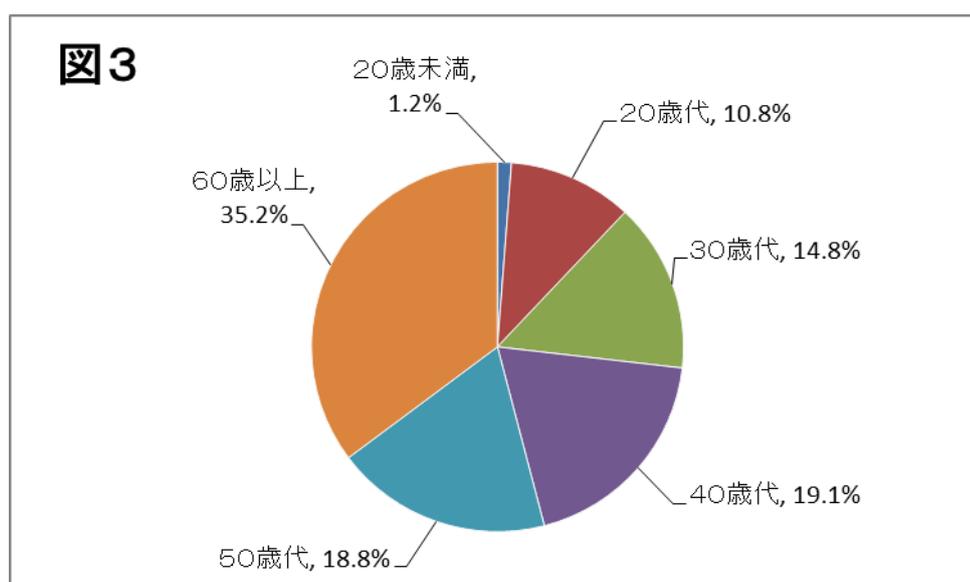
(2) 居住地別観光入込客数



居住地別に見ると、県全体では県内客は1,623万8千人（構成比34.6%）、県外客は3,072万4千人（構成比65.4%）と、県外客が多くを占めた。特に飛騨圏域では県外客の割合が82.2%と高い。

県外客のうち約7割が東海地方からの観光客であり、以下近畿、関東地方と続いている。（図2）

(3) 男女別・年齢別観光入込客数

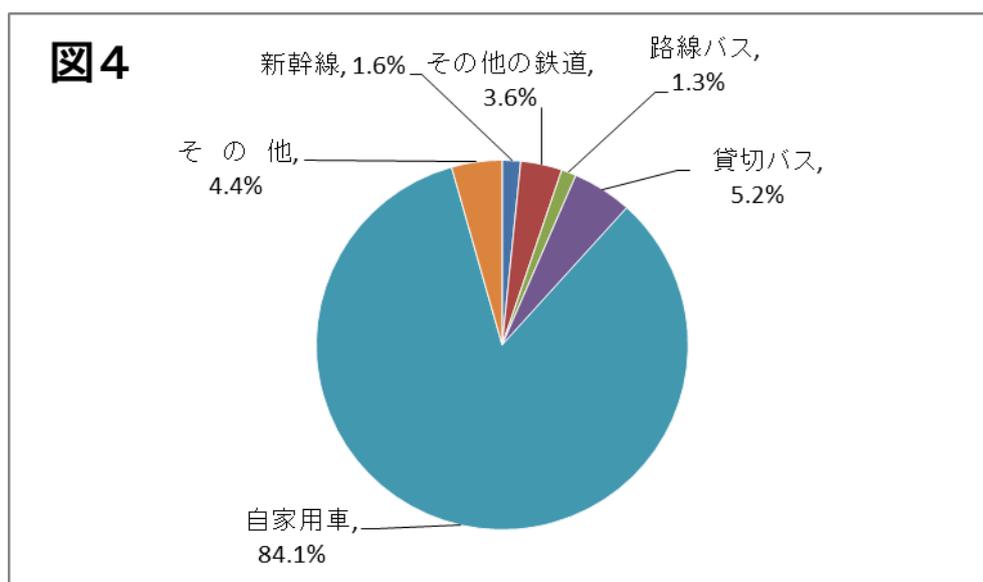


男女別で見ると、男性が2,382万2千人（構成比50.7%）、女性は2,314万

人（構成比 49.3%）と前年に引き続き男性が多かったものの、女性の観光入込客数が増えている。

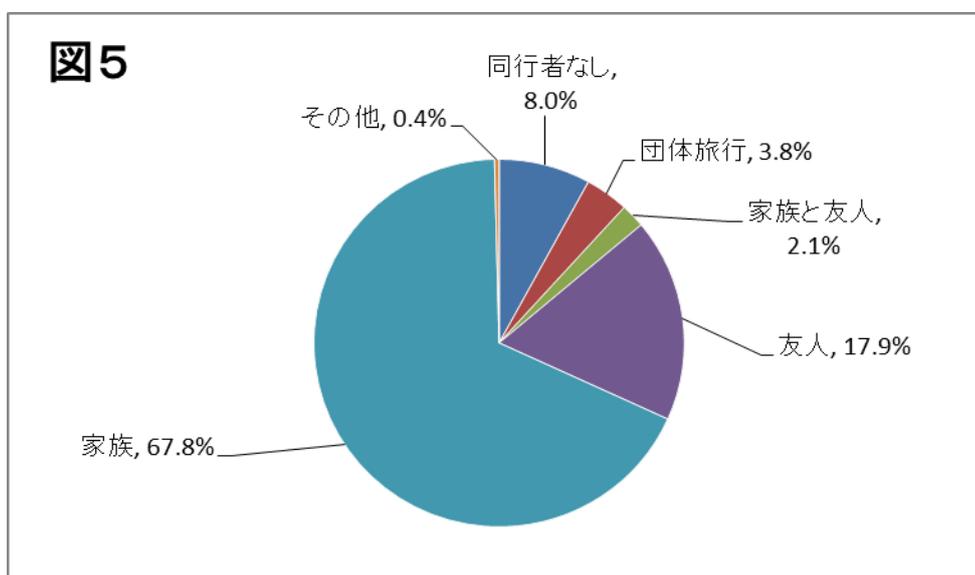
年齢別では、60歳以上が 35.2%と最も多く、続いて40歳代、50歳代が多い傾向は変わらないが、20歳代以下の若年層が増えている（10.7%→12%）。（図3）

（4）利用交通機関別観光入込客数



利用交通機関別に見ると、自家用車が最も多く全体の 84.1%を占め、鉄道や路線バスなどの公共交通機関の割合は低い。（図4）

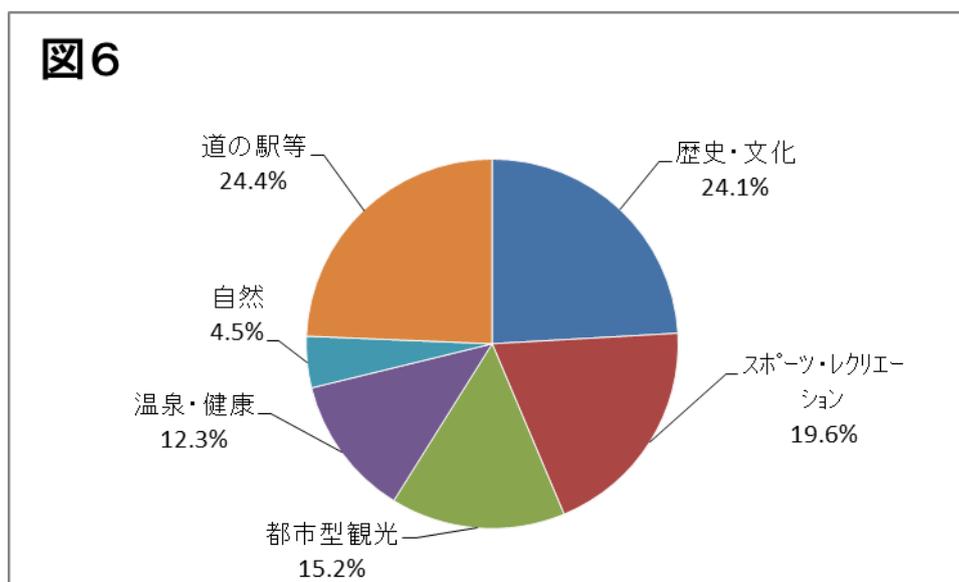
（5）同行者別観光入込客数



同行者人数別に見ると、「(本人を含め) 2～3人」が最も多く全体の 65.2%を占め、続いて「(本人を含め) 4～5人」が 17.2%であった。

同行者別に見ると、「団体旅行」の割合は全体の 3.8%にとどまり、「家族」が 67.8%と最も多く、次いで「友人」17.9%と個人旅行が主流となっている。(図5)

(6) 観光地分類別観光入込客数



観光地分類別に見ると、「道の駅等」、「歴史・文化」、「スポーツ・レクリエーション」の順に多く、以下、「都市型観光(買物・食等)」、「温泉・健康」、「自然」と続く。(図6)

※観光地の分類方法については、次頁<調査の概要>参照

○ 平均訪問地点数と平均宿泊数

1人当たり平均訪問地点数(「観光地点入込客数(延べ人数)」を「観光入込客数(実人数)」で除したものは、**1.5地点**で、四半期別に見ると、1～3月が1.6地点、4～6月が1.5地点、7～9月が1.5地点、10～12月が1.5地点であった。

また、同一施設における1人当たり平均宿泊数(「宿泊客数(延べ人数)」を「宿泊客数(実人数)」で除したものは、**1.0泊**で、四半期別に見ると、1～3月が、1.0泊、4～6月が1.0泊、7～9月が1.1泊、10～12月が1.0泊であった。

< 調査の概要 >

本調査は、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」(平成25年3月改定)に基づき、実施したものである。

1. 調査期間

平成28年1月1日から平成28年12月31日まで

2. 調査対象観光地点等

①観光地点の定義

- ・非日常利用が多いと判断される地点。
- ・観光入込客数が適切に把握できる地点。
- ・前年の観光入込客数が年間1万人以上、若しくは前年の特定月の観光入込客数が5千人以上である地点。

②観光地点等の分類

観光地点等の分類は以下の区分による。

■観光地点	
自然	山岳、高原、湖沼、河川、海岸、海中、島、その他自然(エコツーリズム、グリーンツーリズム等)
歴史・文化	史跡、城、神社・仏閣、庭園、歴史的まち並み、旧街道、博物館、美術館、記念・資料館、動・植物園、水族館、産業観光、歴史的建造物、その他歴史
温泉・健康	温泉地、その他温泉・健康
スポーツ・レクリエーション	スポーツ・レクリエーション施設、スキー場、キャンプ場、釣り場、海水浴場、マリーナ・ヨットハーバー、公園、レジャーランド・遊園地、テーマパーク、その他スポーツ・レクリエーション
都市型観光 一貫物・食等	商業施設、地区・商店街、食・グルメ、その他都市型観光一貫物・食等(農水産品の直売所、物産館等)
道の駅等	他に分類されない観光地点(道の駅、パーキングエリア等)
■行祭事・イベント	行・祭事、花見、初詣、花火大会、郷土芸能、地域風俗、博覧会、コンサート、スポーツ観戦、映画祭、コンベンション・国際会議、他に分類されない行祭事・イベント

3. 調査プロセス

(1) 観光地点等入込客数調査

統計の基礎となる観光地点等ごとの入込客数（延べ人数）を把握する。

(2) 観光地点パラメータ調査

県内の15観光地点を訪れた観光客を対象に調査を行い、属性別の構成比、平均訪問地点数、平均消費額単価などのパラメータを算出する。

(3) 観光入込客数（実人数）・観光消費額単価・観光消費額の推計

上記（1）、（2）及び観光庁より提供される以下のデータを用いて推計する。

- ・観光目的別・居住地別の宿泊観光入込客数
- ・ビジネス目的・県外の日帰り観光入込客数
- ・観光目的別・宿泊／日帰り別の訪日外国人の観光消費額単価
- ・ビジネス目的・宿泊／日帰り別、県内／県外別の観光消費額単価
- ・観光／ビジネス別、県内／県外別実家・キャンプ場等利用補正係数